

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会(大阪府保育協議会)

令和7年1月1日

No.593



発行人 森田 信司 編集人 向井 秋久

大阪市中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001

FAX.06-6768-2426

<https://www.niji-tumi.net/>

あけまして
おめでとう
ございます

2025

やあ～
獅子舞だ

おもちゃ
ごっこ

食欲の秋

かるた何枚
取れる
かな?

つくたての
お餅を
丸める

がぶっ

二上山
登山

写真：げんきこども園／ハッピーチルドレン保育園／愛保育園／鳳西こども園

災害を 乗り越えた先に



保育部会 部会長
森田 信司

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、1月1日に能登半島を大きな地震が襲い、復興途中の9月には、豪雨が襲いました。二重災害で苦しい暮らしを余儀なくされている方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

そうしたなか、日本中から支援や応援に入り、大阪からもたくさんの方々がボランティアに行かれました。改めまして、感謝申し上げます。

そして、夏は記録に残るような猛暑、酷暑でした。この影響で、ゲリラ豪雨や大雨による特別警報や警報が出され、豪雨災害が起こりました。この猛暑の影響は野菜や食物にも影響があり、物価高騰にもつながってしまいました。

振り返ってみますと、こうした災害と物価高騰の1年であったのでは

と思います。

今年は巳年です。蛇は脱皮を繰り返し、脱皮することから「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起の良い動物とされているようです。昨年災害に遭われた地域の復興が進むことに期待し、一刻も早い再生を願うものです。

さて、昨年末には、こども家庭庁から人事院勧告によって10・7%の人件費のアップが示されました。これによって賃金は上がりますが、全産業平均の賃金とは格差が残ったままです。また、こども家庭庁での「保育人材確保懇談会」開催にみられるように、人材確保の課題もやっと議論されるようになり、今年は人材確保に向けた総合的な対策の検討が進むと思われます。

本会においては、行政・関係機関と連携を図りながら、これまで以上に災害に強い大阪をめざした情報提供と支援を行うとともに、次代の大阪の保育の基礎を築くべく邁進する所存です。

今年も保育部会の活動にご支援、ご協力賜りますようお願いいたします。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は大阪府保育士会の事業にご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

昨年の新年は

能登地方の震災からはじまり、日本全体に驚きと不安が駆けめぐりました。保育界も不適切な保育、人材不足、ハラスメント等、切実なる問題が次々に出てきました。そうしたなか、被災後まもなく保育をはじめられた石川県の先生方の



大阪府保育士会 会長

伊藤 裕子

今までの叡智を生かす 一年に

度、地域包括支援を求められ、どうしていいのかわからず、私に、できることからやってみようという気持ちで感じてきてくれました。専門機関と連携して、社会の変化がもたらす

行動に頭が下がりました。そして、私たちに勇気と保育の大切さを感じさせてくれました。ともすれば、国のメニユーで子ども誰でも通園制

ヤングケアラー、隠れ貧困等の人たちが笑顔あふれる日々を送れる一助になれるよう、子育て親子に寄り添いながら、共に歩んでまいりましょう。

令和7年は巳年。昨年からの皮脱いで、今までの叡智を生かし、さらなる学びをもち、未来に向かってまいりましょう。

蛇の道は蛇が知る。先人の残した諺を信じて、輝く子どもと皆様と共に良き一年となることを祈念いたします。



大阪府福祉部 子ども家庭局長

福本 泰延

希望と夢を育める 大阪をめざして

保育士の配置基準の見直しやこども誰でも通園制度の本格実施に向けた試行的事業などの取組みが次々と行われております。

府でも、現在、新たな「大

様のお声を受け止め、市町村や関係機関とも、より緊密に連携しながら、取組を進めてまいります。

今年、はいよいよ大阪・関西万博が開催されます。

保育部会の皆様方の本年のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

子どもたちに万博を通じて未来社会を体感してもらい夢と希望をたくさん感じ取ってもらい、その希望や夢をばぐくむことができる大阪の実現をめざして取り組んでまいります。

で、引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。

子どもの人権と健やかな育ち

北摂ブロック保育部会 安家 比呂志

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
子どもは、一人ひとりが個性ある人格をもったかけがえのない存在であり、人権が尊重されなければなりません。子どもには、自ら育つ力と多く

育園、こども園、学校などでの人との関わりや体験を通して、生活習慣、自分を大切にする気もちや他者への思いやり、創造力、自ら考え主体的に行動する力を養いながら、人とながり、未来を切り拓く力を身につけることです。本年もよろしくお祈りします。

新しいことがはじまる年

北大阪ブロック会 端野 秀人

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
令和6年は元日の能登半島地震にはじまりました。復興がなかなか進まなかったこの1年、被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

保育界は人材不足、不適切保育など厳しい状況が続いています。皆様が諸問題に誠実に取り組まれている努力が、将来実を結び、子どもたちの健全な成長につながることを心より祈念いたします。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

世界で活躍できる人材へ

河内ブロック会 西岡 剛司

謹んで新年のお慶び申し上げます。
昨年、大谷翔平選手のアメリカでの活躍が社会全体に素晴らしい影響を与え続けています。その要因は、卓越した野球の才能だけでなく

き出すには、自己肯定感が大切です。そのために、4歳から6歳の時期に、自ら考えて行動できる保育環境を整えてまいりたいと思います。
巳年の今年は、努力を惜しまず粘り強い「再生」を懸ける一年になります。今年も皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



制度を理解し、最適な施設運営を

南大阪ブロック民間保育園連盟 松井 秀樹

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。今後は、昨年はじまった試行的事業「誰でも通園制度」の在り方を注視していかねければなりません。これから時代や社会状況の変化とともに、子ども、

ブロックにおきましては引き続き、保育の質の向上、福利厚生、子どもたちの交流を主として事業を進めていきたいと思っています。今年は大阪万博も開催されます。各園とも万博に負けないくらい盛り上げていきましょう。本年もよろしくお祈りいたします。

保育の質の向上をめざして

特定非営利活動法人 さかい民間教育保育施設連盟 篠崎 直人

あけましておめでとうございます。
昨年度の人事院勧告を受けて保育者の処遇は10・7%改善されました。保育者の給与が安いと言われはじめて久しいですが、少しずつ良くなって

遠くはないような気がします。
職員は保育の質につながります。こどもまんなか社会の実現に向けて、職員配置基準の改善とともに保育者の育成にも力を入れていける一年になればと思います。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

自分と未来を変えるために

泉州民間保育協議会 土金 新治

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨今、人口減少社会における多様な担い手による地域づくりをめざす市町村社協、施設連絡会など、協議体の活動が盛んになっています。また、保育施設で

ものにしたいと思っています。さまざまな活動の意味は人から与えられるのではなく、自ら考え、気づいていきたいもの。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」。これは、精神科医エリック・バーン氏の言葉です。本年もよろしくお祈りいたします。



寝屋川市

生きる力の育ちを大切に

たちばなこども園

幼保連携型認定こども園

社

会福祉法人聖森会幼保連携型認定こども園たちばなこども園は、京阪寝屋川市駅から徒歩5分の場所にあります。電車通勤の保護者に便利な立地のため、いろいろな地域から園児が通われているそうです。



▲かわいい門扉が目を引く園舎

園名の「たちばな」をモチーフにした門に迎えられ、建物に入ると、大きなガラスの窓から太陽の光が降り注ぎ、あたたかな空間が広がります。広い園庭とホールがあり、晴れの日は園庭で、雨の日でもホールで体を使った遊びを行います。リトミックやリズム

運動、3歳児は竹ぼうくり、4歳児は一本下駄、5歳児は竹馬に挑戦。バランス感覚を養うとともに、丈夫な体づくりに取り組んでいます。「子ども同士で援助し教えあい、できなかつた子どもができるようになった時の姿にいつも元気をもらいます。子どもの力にびつくりさせられます」と園

長先生。食育や感覚あそびといった、五感を刺激する取り組みにも力を入れておられます。「さまざまな体験や日々の遊びのなかで、子どもたちはいろいろなことに気づき、学んでいく。子ども同士の関わりのおかげで、相手の気もちを分かってあげられる力や、人を応援する気もちが芽生えます。それが、これからの世界でも頑張れる力になると思う」と子どもの「生きる力の育ち」を大切にされています。(編集委員 R・N)

堺市

地域に根ざした園をめざして

八田荘第二こども園

幼保連携型認定こども園

平

成13年4月、八田荘第二保育園として開園し、平成27年4月より「幼保連携型認定こども園」となり、八田荘第二こども園に名称変更しました。今年24年目を迎えられる、現在は定員122人で運営されています。

平屋造りの園舎は、風通しや日当たりがよく、室内にながら自然を感じられます。そのような環境で、子どもたちはのびのびと過ごしています。

平屋で、保育室を歩き来しやすいつくりになっているので、子ども同士のコミュニケーションも取りやすくなっています。また、職員同士の関係も良好なので、連携プレーにより、行事や日々の保育がスムーズに行われています。地域の行事に参加すること

も多く、8月は神社での「風鈴まつり」に、園児が絵付けした風鈴を奉納しました。10月には地元のだんじり祭の曳行に参加し、子どもたちの元気な姿を見ていただきました。今年は、町内の献灯台に園児の描いた絵を掲示したところ、地域の方に好評でした。園長先生は、「これからも、さまざまな活動を通して地域の方々とのつながり、地域に根ざした園でありたい」と願っておられます。(編集委員 K・K)



▶門壁には可愛い絵が描かれています

